

研究課題	中学校総合的な学習の時間を核におき、「学びのデジタルポートフォリオ」を活用した探究型学習の実践とその効果
副題	生徒エージェンシーと教師エージェンシーの向上を目指して
キーワード	総合的な学習の時間、ICT、デジタルポートフォリオ、エージェンシー
学校/団体名	公立浦添市立浦西中学校
所在地	〒901-2104 沖縄県浦添市当山3丁目1番1号
ホームページ	https://www.city.urasoe.lg.jp/kyoiku/uranishi-jhs/

研究課題において、「生徒の主体的な学びを支える『学びのデジタルポートフォリオ』の構築～総合的な学習の時間を核においたキャリア教育を通して～」を当初設定していたが、テーマに沿って実践研究を進めたところ、想定以上に内容が深まり、今回の報告書では「生徒エージェンシーと教師エージェンシーの向上との関連」についても言及し報告する。

1. 研究の背景

本校は、市内で最も規模が小さく、大多数の生徒が近隣の当山小学校から進学する「一小一中」型の環境にある。中学入学後も人間関係が固定化しやすく、協働的な学びや異なる価値観との出会いが限られる傾向があった。令和3年の生徒アンケート分析から、以下の3つの課題が明らかになった。① 学習の動機づけの不足：「知りたい」「学びたい」「解決したい」という探究心の喚起が不十分、② 異なる価値観との対話不足：他者の意見と比較し、自分の考えを深める機会が少ない、③ 学習の記録・振り返りの不十分：学びの可視化や自己の成長を認識する場が不足。

これらを解決するため、令和4年度より総合的な学習の時間を核とした探究型学習のカリキュラム改革を進め、令和5年度からはそれを支えるツールとして「学びのデジタルポートフォリオ」の活用を通じた生徒の学習プロセスの可視化と振り返りの習慣化を促した。本研究では、デジタルポートフォリオを活用し、生徒と教師が学習の進捗を共有しながら相互フィードバックを行い、探究プロセスを効果的に循環させることで、「主体的な学び」の充実と、生徒・教師エージェンシーの向上を目指すこととした。

2. 研究の目的

OECD (2019) は、生徒エージェンシーを “the capacity to set a goal, reflect and act responsibly effect change” と定義し、共同エージェンシーを “students, teachers, parents and communities work together to help students progress towards their shared goals” としている。特に、デジタルツールの活用は、学習の進捗や共有するゴールの可視化及び協働を促し、エージェンシーの発揮を支援する有効な手段とされる。

本研究は、令和5年度に浮き彫りとなった「学習記録を振り返ることの困難さや必要な情報収集の非効率性」の課題を解決し、生徒・教師のエージェンシー向上を目的に、探究型学習へデジタルポートフォリオを導入する。OECDの「2030 学びの羅針盤」では、学習者の自己管理能力と、教師による主体的学びの支援が重要とされている。今年度は、昨年度から取り組んでいる「学びのデジタルポートフォリオ」の活用を改善し、①生徒が探究プロセスを主体的に管理する、②教

師が指導戦略を立て、振り返りと改善を行う、③生徒が自身の興味・関心を起点に主体的に学ぶことで、エージェンシーを高める、という3つの目標を掲げ、実践を進める。

3. 研究の経過

表 1: 研究の経過

① 時期	生徒の取組み内容	教師の取組み内容
4月		・前年度の実践及び生徒の実態を踏まえた「総合的な学習の時間」のカリキュラム及び「校内研究・校内研修推進計画」提案 ・本研究の起点となる「探究活動」及び「デジタルポートフォリオ」に関する職員研修・講話 ★各研修終末: 発表・質疑応答・意見交換
5月 【課題設定】 【情報収集】	【前期至遅タイム(総合的な学習の時間)】 ・各学年自己探究ガイダンス(2h) ・課題設定及びワーキンググループづくり(4h) ★毎時間の振り返りカード記入(探究プロセスの記録)	自己探究開始 ・総合的な学習の時間委員会にてエージェンシー見取りの検討
6月 【情報収集】 【整理分析】 【まとめ・表現】	・課題設定に係るフィールドワーク(2h~4h) ・探究計画発表会: 生徒同士の批評活動(2h) ★毎時間の振り返りカード記入、探究計画書作成、コメントカード記入	・生徒の振り返りの分析と指導改善
7月 【課題設定】 【情報収集】 【整理分析】	・探究計画に基づいた情報収集・フィールドワーク(4h+夏休み課題) ・後期プロジェクト型学習ガイダンス①(1h) ・後期プロジェクト型学習に関する興味関心の洗い出し(夏休み課題) ★毎時間の振り返りカード記入、第1回県版生徒質問紙、学校評価アンケート実施、デジタルポートフォリオへの記録	・夏季校内研修(前期の振り返りと改善計画の策定) ・地域企業、団体との連携強化(プロジェクト型学習の設計) ★第1回学校評価アンケート(教師エージェンシー・共同エージェンシーに関するアンケート基礎データ)
8月 【整理分析】 【まとめ】	・自己探究学年成果報告会に向けてポスター作成・発表練習(2h) ★毎時間の振り返りカード記入	
9月 【まとめ・表現】	・自己探究学年成果報告会: 生徒同士の批評活動・代表選出(2h) ・自己探究全体成果報告会: 地域人材との批評活動(2h) ★コメントカード記入、ポスター作成、前期自己探究振り返りワークシート記入、デジタルポートフォリオへの記録	★教師エージェンシーに関するアンケート実施
10月 【課題設定】 【情報収集】 【整理分析】 【まとめ・表現】	【後期至遅タイム(総合的な学習の時間)】「プロジェクト型学習」開始 ・各学年プロジェクト型ガイダンス②(2h) ・課題設定及びワーキンググループづくり(4h) ・課題設定に係るフィールドワーク(2h~4h) ・事業計画発表会/映像制作中間報告: 生徒同士の批評活動(2h) ★毎時間の振り返りカード記入、事業計画書/絵コンテ作成、コメントカード記入	
11月 【課題設定】 【情報収集】 【整理分析】 【まとめ・表現】	・事業計画/絵コンテに基づいた情報収集・フィールドワーク(4h~6h+修学旅行) [3学年]ハピムビ学年成果報告会 ★毎時間の振り返りカード記入、15秒映像+プレゼンテーション実施、後期ハピムビ振り返りワークシート記入、第2回生徒アンケート(3学年)実施	★第2回教師アンケート(全教師)実施
12月 【情報収集】 【整理分析】	・[1・2学年]事業計画に基づくフィールドワーク(4h+キャリアハピ祭プレオープン2h/修学旅行) ★毎時間の振り返りカード記入	
1月 【情報収集】 【整理分析】 【まとめ】	・[1学年]キャリアハピ祭6h ・[1・2学年]キャリアハピ・ハピトラ学年成果報告会準備(2h) ★毎時間の振り返りカード記入、プレゼンテーション	
2月 【まとめ・表現】	・[1・2学年]キャリアハピ・ハピトラ学年成果報告会、全体成果報告会 ★プレゼンテーション、後期キャリアハピ・ハピトラ振り返りワークシート記入、第2回生徒アンケート(1・2学年)実施、デジタルポートフォリオへの記録	★第3回教師アンケート(全教師)実施、第1回第三者評価アンケート実施、インタビュー調査(外部)実施、第1回管理職アンケート実施

4. 代表的な実践

本研究における生徒の主体的な学びを支える大きな柱は、①共通の見通しを持った教師の関わりと支援体制②共通の見通しを持って、生徒が自身の活動を管理する支援環境や手段である。本校は、総合的な学習の時間の実践における目指す生徒像と教師像を図1の様に掲げ、校内研修・生徒へのガイダンス・日々の教育活動などのあらゆる機会に活用した。

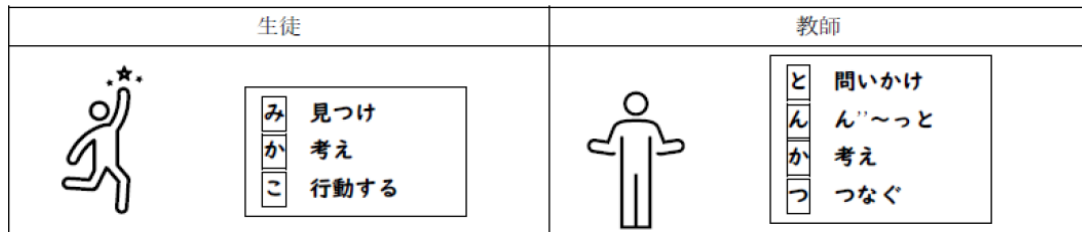


図1:めざす生徒像と教師像

(1) 校内研修の様子

年度初めに、新任教師を含むすべての教師が共通の認識を持てるよう、①生徒の実態把握、②校内研修および総合的な学習の時間の目的と流れ、③指導の拠り所となる理論を取り扱う研修を実施した。研修の形式は、生徒が身に付けるべき学びのプロセスと相似形になるよう設計し、めざす生徒像「みかこ」およびめざす教師像「とんかつ」を意識した対話型とした(図2)。



図2:校内研修の様子

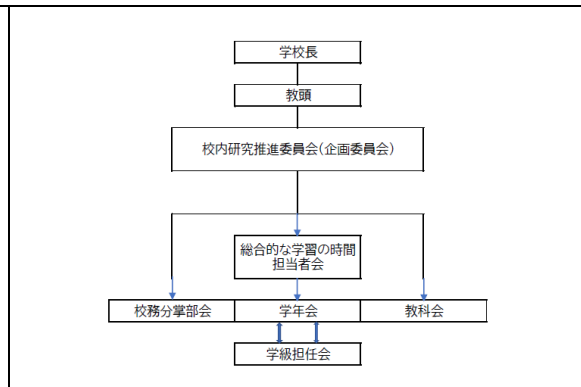


図3:組織体制

この研修では、他教科・異学年・地域人材との意見交換を行い、指導の質を向上させることを目的とした。さらに、カリキュラムを柔軟に改善できるよう、年度初めの指導計画には余地を持たせ、以下のような週次の会議体制①総合的な学習の時間委員会(毎週月曜4時間目):指導方法の改善・共有②ミニ学年会(毎週火曜放課後30分):学年ごとの調整を設けた(図3)。

こうした仕組みにより、教師間の協働を促進し、計画の継続的な見直しを可能にした。

(2) デジタルポートフォリオの活用

表2 デジタルポートフォリオの概要

使用ツール	ロイノート、デジタルペンシル
活用方法	授業ごとに振り返りカードを記入し、単元の適切な場面でデジタルポートフォリオに画像や動画、文章で活動を記録
共有の仕組み	生徒間および教師間で記録を共有し、学びを深める。

本研究では、表2に示す手法を用いたデジタルポートフォリオを採用し、生徒が学びの過程を記録し、振り返り、次の行動を計画するツールとして活用した。これにより、生徒と教師が共通の目標を持ち、探究活動を支援する仕組みを構築した。具体的には、めざす生徒像「みかこ」と教師像「とんかつ」(図1)を合言葉に、「課題発見力」と「創造的思考力」の育成を目指した。生徒は

毎時間の振り返りを行い（図4）、重要な活動をデジタルポートフォリオ（図5）に蓄積することにより、自身の学びを可視化し、次の行動につなげる習慣が形成された。

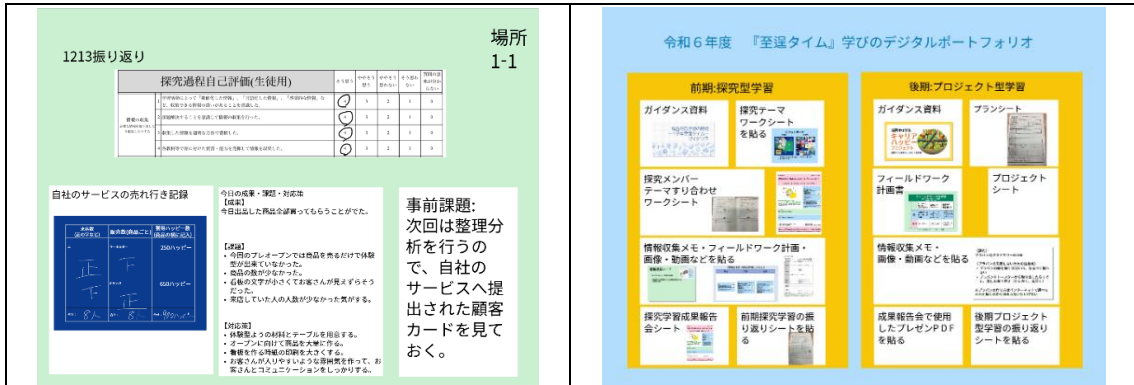


図4: 毎時間の振り返りカード

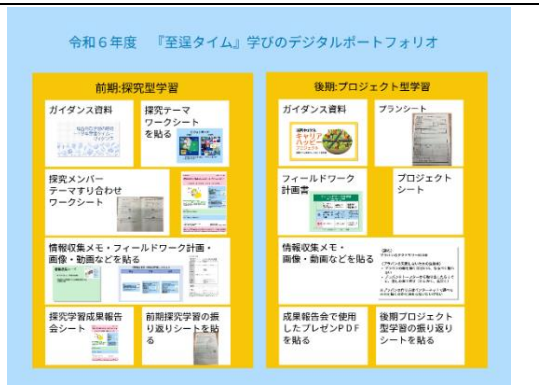


図5: 生徒用デジタルポートフォリオ

教師も自身の指導を探究型学習のプロセスに沿って振り返るため、教師用デジタルポートフォリオを作成し、（図6）週次のカリキュラム・マネジメントを行い、授業改善を図った。



図6: 教師用デジタルポートフォリオ

5. 研究の成果

(1) 教師エージェンシー・共同エージェンシー

教師用アンケートの質問項目は、教師の反省的実践、共同目標の設定と達成、学習者支援の能力を測定するための指標として有効であるとされる「教師エージェンシー・共同エージェンシー尺度」(扇原ら,2020)を参考にして作成した(表3)。

表3 教師用アンケート

質問番号	質問項目
1	総合的な学習の時間の指導・支援は好きですか？
2	ご自身のとんかつ(問いかげ、ん〜と、考え、つなぐ)度を教えて下さい。
3	私は、人、社会、自然に直接関わる体験活動を重視し、学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫している。
4	私は、事前に生徒の発達や興味・関心を適切に把握している。
5	私は、これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせるように工夫している。
6	私は、学習活動によって「数値化した情報」、「言語化した情報」、「感覚的な情報」など、収集できる情報の違いがあることを意識して支援している。
7	私は、生徒が課題解決のための情報の収集を自覚的に行うように支援している。
8	私は、生徒が収集した情報を適切な方法で蓄積するように支援している。
9	私は、生徒が各教科等で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集するように支援している。
10	私は、生徒自身が情報を吟味するように支援している。
11	私は、生徒が「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールの活用や各教科等との関連を図ることを意識するように支援している。
12	私は、生徒が「相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりする」ように支援している。
13	私は、生徒が情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚できるように支援している。

教師 エー ジェン シー	14	私は、生徒が伝えるための具体的な方法を身に付け、目的に応じて選択して使えるように支援している。
	15	私は、生徒が 各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用するように支援している。
	16	私は、職業上の目標を達成する方法を責任持って自分で選択し、実行している。
	17	私は、 教師として何をすべきか自分で目標を立てている。
	18	私は、 自分の行った教育実践を次の行動のために振り返っている。
	19	私は、 学習指導要領や学校の計画に沿いつつも、可能な限り生徒に適した授業や活動を教師の判断で柔軟に展開している。
	20	私は、生徒 が主導して内容や進め方を決めるような授業を多くしている。
	21	私は、生徒と教師が内容や進め方を一緒に決め、対等な立場で進めるような授業を多くしている。
	22	私は、教師が授業の内容や進め方をすべてきめるような授業を多くしている。
	23	私は、生徒自身が課題設定や学習方法の選択をするような授業や活動では、教師が口を出し過ぎずに見守ることを意識している。
24	私は、生徒がよりよい社会や自分の幸福な人生のために学んでいると感じられるような授業や活動を意識している。	

加えて、教師・生徒の取組みを観察して、管理職がどのようなことを感じているかについてインタビューを行った。(表4)

表 4 管理職へのインタビュー項目

番号	内容
1	本校の「総合的な学習の時間」に関する取組みを見てどのような特徴があると思いますか？
2	本校の生徒と教師の様子を見て、どのような点がよさだと感じますか？なぜ？
3	本校の生徒と教師の様子を見て、どのような点が課題だと感じますか？なぜ？
4	今後どのような取組みを期待しますか？なぜ？

質問紙調査結果を検定するためにウィルコクソン符号順位検定を実施し、24 項目中 13 項目で有意差が見られた。図7の職員アンケート結果では、すべての項目で事後平均(赤)が事前平均(青)を上回り、探究型学習や「学びのデジタルポートフォリオ」の活用が教員の指導観や実践に影響を与えたことが示唆される。特に、「総合的な学習の時間の指導・支援は好きですか？」の大幅な向上は、探究型学習の導入により、指導の満足度や達成感が高まったことを示している。また、「とんかつ度(問いかけ・考え・つなぐ役割)」の向上は、教員が生徒との関わり方を見直し、「指導者」から「共に学ぶ存在」へと意識を転換したことを示唆する。「職業上の目標を達成する方法を責任持って選択・実行している」の上昇は、教員自身の主体的な成長意識の向上を示している。さらに、「生徒がよりよい社会や幸福な人生のために学んでいると感じられる授業を意識している」の向上は、探究型学習が生徒の学びを社会や実生活と結びつける意識を高めたことを示している。デジタルポートフォリオの活用により、学習の目的意識が可視化され、生徒の主体的な学びを支援しやすくなったと考えられる。

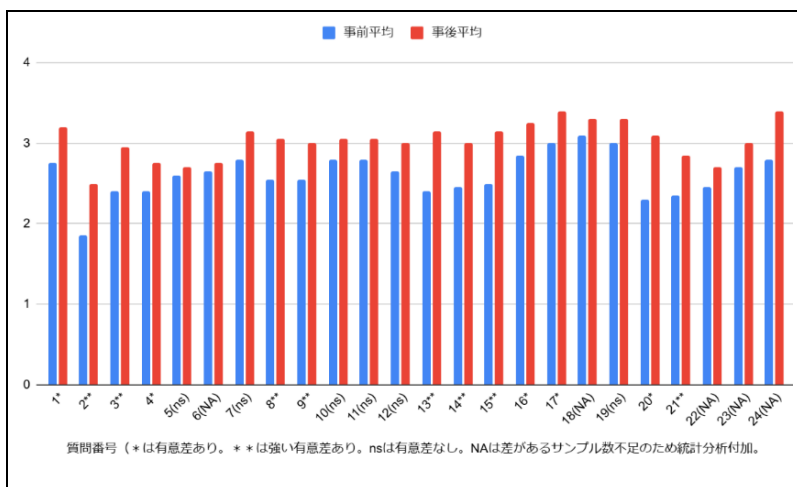


図7: 職員用アンケート 4件法 (0725_0221 比較)

この変化は管理職アンケートの結果とも一致しており、本校の総合的な学習の時間が「地域や社会と直結し、新たな価値の創造を促す学び」と評価されていることから明らかである。教員が他校の研修講師として招かれる機会が増えたこと(図8~13)も、教師エージェンシー・共同

エージェンシーの向上を裏付けている。探究型学習とデジタルポートフォリオの活用は、指導の

質を向上させるだけでなく、教育現場全体の実践知を蓄積・共有する機会を生み出したと言える。



図8 那覇市立小祿中学校の校内研修の様子



図9 浦添市中小企業同友会からII社の社長を招聘



図10 沖縄県立宮古総合実業高校の視察受け入れ

魅力ある学校づくりに向けて

的な学習の時間について、浦西中より **安里三矢子** 教諭を招聘し、主体的な学びの視点と次年度に向けての計画等の方向性を確認することができました。先生方にとっても有意義な夏休みとなりました。

図11 宮古島市立平良中学校校内研修の様子
平良中学校ホームページより引用



図12 沖縄・徳島交流学习発表会にて実践発表

目指す生徒像にチームで迫る
校内研修・校内研究の実際

—「課題発見力」と「創造的思考力」を育むために
主体的に学び根拠と共に自分の意見を発信する生徒の育成—

浦添市立浦西中学校
教諭 安里三矢子

令和6年度浦添市研究主任研修会
(2025.01.30.TTHU)

図13 浦添市研究主任研修会にて実践発表

(2)生徒エージェンシー

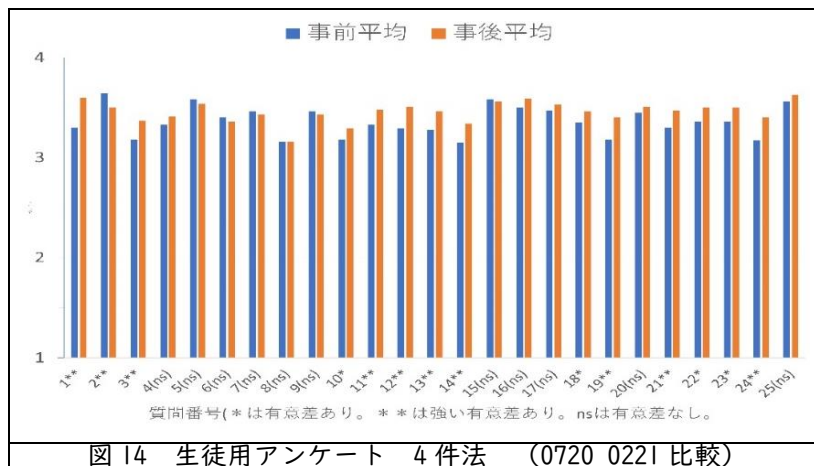
生徒用アンケートは「探究過程」と「生徒エージェンシー」の2分類で構成し、前者は『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』に記載された探究過程の各ポイントを反映して作成した。後者は、『中学生における生徒エージェンシーの関連要因及び中学生が重視するウェルビーイングの分野』を参考にして作成した。

表5 生徒用アンケート

探究過程	課題の設定 体験活動などを通して、課題を設定し、課題意識を持つ	1	私は、人、社会、自然に直接関わる体験活動を重視し、学習対象との関り方や出会わせ方などを工夫している。
		2	私は、事前に生徒の発達や興味・関心を適切に把握している。
		3	私は、これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせるように工夫している。
	情報の収集 必要な情報を取り出したり収集したり	4	私は、学習活動によって「数値化した情報」、「言語化した情報」、「感覚的な情報」など、収集できる情報の違いがあることを意識して支援している。
		5	私は、生徒が課題解決のための情報の収集を自覚的に行うように支援している。

する	6	私は、生徒が収集した情報を適切な方法で蓄積するように支援している。		
	7	私は、生徒が各教科等で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集するように支援している。		
	8	私は、生徒自身が情報を吟味するように支援している。		
	9	私は、生徒が「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールの活用や各教科等との関連を図ることを意識するように支援している。		
	10	私は、生徒が 相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりするように支援している。		
	11	私は、生徒が情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚できるように支援している。		
	12	私は、生徒が伝えるための具体的な方法を身に付け、目的に応じて選択して使えるように支援している。		
	13	私は、生徒が 各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用するように支援している。		
	14	私は、人、社会、自然に直接関わる体験活動を重視し、学習対象との関り方や出会わせ方などを工夫している。		
	生徒エージェンシー	15	学習するうえでの自分の目標を決めることができた。	
		16	学習したことを次の活動のために振り返ることができた。	
		17	学習したことを生かして、責任をもって活動したり、何かを決めたり選んだりできた。	
		コンピテンシー尺度 メタ認知力	18	探究学習での学びや活動の途中、またはそれが終わった後で、「何が分かって、何が分からなかったか」「どれくらいうまくやれているか」など、自分の理解の程度や達成度を自分自身で感じ取ることができた。
			19	探究学習での学びや活動の中で、分からなかったり、うまくできないことがあった場合に、教科書(や本・資料など)を見直したり、その理由を考ええたり、違うやり方を試したりなど、よく分かるための工夫や、よくできるための工夫ができた。
コンピテンシー尺度 協働する力		20	探究学習での話し合いやグループ活動の中で、自分以外の人の意見を聞こうとしたり、自分とは意見が違う人とも、グループの目標達成のために前向きに話し合いをすることができた。	
		21	探究学習での話し合いやグループ活動の中で、「自分が何をすればみんなの役に立つか」を考えて行動をすることができた。	
		22	探究学習での話し合いやグループ活動の中で、他のメンバーが困っていたら、うまくいっていない場合などに助けてあげることができた。	
コンピテンシー尺度 よりよい社会への意識		23	探究学習での学びや活動の中で、多くのこと学んだら、考えたりすることで、人々の暮らしを変えたり、社会をより良くする人になりたいと思った。	
		24	探究学習での学びの中で、今までのやり方を見直したり、新しい取り組みを提案したりすることで、学校やクラス、授業をより良く変えていきたいと思った。	
知識獲得量の自己評価		25	探究学習での学びや活動の中で、知識をたくさん得ることが出来た。	

図 14 の生徒アンケート結果では、多くの項目で事後平均が事前平均を上回り、探究学習の実践を通じて生徒の学習姿勢や自己認識に変化が生じたことが示唆される。主な成果は、①課題設定 (項目 1・3) : 体験活動を通じて課題意識が強まり、価値観の変化を実感する機会が増加、②情報収集・整理分析 (項目 6・9) : 必要な情報を選択・整理し、発表スキルが向上、③生徒エージェンシー (項目 11・12) : 学習の目的意識や主体性が向上、④協働する力 (項目 14・16) : 役割認識や協働意識、他者支援の姿勢が強化、⑤よりよい社会への意識 (項目 17・



18) : 学びの社会的意義を実感し、社会や学校改善への意識が向上したことが確認された。

これらの成果は、生徒が「みかこ」し、教師が「とんかつ」する協働的な学び (図 11) を通じ、主体的に探究プロセスを通して学びを深めた

と考えられる。また、地域社会や専門家とのつながり（図 15～20）が、生徒の学びをより深め、エージェンシーの向上につながったことも示唆される。



図 15 理想の姿:「みかこ」と「とんかつ」



図 16 沖縄を代表する映像制作会社 CMC さんに映像制作に関するアドバイスをもらう様子



図 17 「交通インフラ整備」の課題解決に向けて沖縄県土木建築部インフラ事業担当者から事業計画の批評を受ける様子



図 18 起業家教育の一環でキャリアハピ祭にて起業する生徒と顧客として来店した地域住民の様子



図 19 沖縄・徳島交流学习発表会にて実践発表



図 20 全体成果報告会にて地域社会へ発信



図 21 生徒の企画が沖縄を代表するお土産企業「御菓子御殿」から常設商品として新発売



図 22 ハピムビプロジェクトが新聞掲載 (琉球新報、2025. 1. 20.)

地域社会からの承認・称賛（図 21）や、民間企業からの商品化（図 20）といった具体的な評

価を受けることで、生徒の自己有能感が高まり、学習意欲が一層強化された。加えて、デジタルポートフォリオや振り返りカードを活用し、多様な他者と学びの進捗を共有しながら自己の学習を可視化できたことも、生徒のエンジェンシー向上を支える重要な要素であったと伺える。

(3) 地域人材からの評価

校内研修や各種成果報告会に地域人材として関わった講師に以下の質問項目(表6)に沿ってインタビューを行った。

表 6 地域人材へのインタビュー項目

番号	内容
1	本校の「総合的な学習の時間」に関する取組みを見てどのような特徴があると思いますか?
2	本校の生徒と教師の様子を見て、どのような点がよさだと感じますか?なぜ?
3	本校の生徒と教師の様子を見て、どのような点が課題だと感じますか?なぜ?
4	今後どのような取組みを期待しますか?なぜ?

カリキュラム・マネジメントから関わった映像制作会社 CMC の前里氏は、本校の「総合的な学習の時間」における映像制作を、生徒が多様な表現方法を選択できる優れた取組みと評価し、生徒が主体的にアイデアを出せる環境が整っていると述べた。また、琉球大学の杉尾教授は「生徒と教師が共に試行錯誤する姿勢が総合的な学習の本質を捉えている」と指摘した。さらに、地域企業や沖縄コンベンションビューロー、学校運営協議会のメンバーからは「課題発見と新たな価値創造を促す取組み」として高く評価され、今後も継続的な実践を求める声が多く寄せられた。

6. 今後の課題・展望

(1) 教師エンジェンシー・共同エンジェンシーの強化

教師アンケートでは全体的な向上が見られたものの、3点が今後の課題として挙げられる。

- ① 情報活用の支援不足 (項目 6) : 教師が「数値化」「言語化」「感覚的」な情報の違いを意識した支援を十分に行えていない可能性が示唆される。今後は、データの可視化ツールや思考ツールの活用を促進し、指導の質を向上させる必要がある。
- ② 生徒主導の学習環境の不足 (項目 20・22) : 生徒が学習の進め方を決定する機会は増えたものの、依然として教師主導の授業スタイルが根強い。生徒が主体的に学べる環境整備や授業デザインの工夫が求められる。
- ③ 教師の意識改革の必要性 : 探究型学習やデジタルポートフォリオの導入により、指導への意識は向上したが、生徒主体の学びを支援する意識改革が課題となる。今後は、実践的な研修を通じて、これらの課題の解決を図る。

(2) 生徒エンジェンシーの向上

生徒アンケートでは多くの項目で向上が見られたが、特に以下の3点が課題として挙げられる。

- ① 情報の整理・分析スキルの向上 (項目 7~10) : 情報の特性を意識した整理・分析の伸びが限定的であり、思考ツールの活用や多角的な視点を促す必要がある。
- ② メタ認知力の強化 (項目 11~13) : 目標設定や振り返りの向上は見られたが、個人差が大きい。自己調整学習を支援するための具体的な指導が求められる。
- ③ 協働スキルの深化 (項目 14~16) : グループ活動への積極的な関与は増えたものの、全体的な意識向上には課題が残る。ルーブリック評価の活用など、協働スキルを高める仕組みの工夫が必要である。

今後は、探究活動の計画段階で情報の扱い方を明確に指導し、協働のプロセスを可視化する取り組みを強化することで、学習の質を向上させる。

(3) 地域人材からの評価

地域関係者からのアンケート及びインタビューによるフィードバックを踏まえ、以下の点が課題として挙げられる。

- ① 教師間の理解・意識の差：アウトカム（成果物）の完成度を重視するあまり、学習プロセスの本質が置き去りにされる傾向がある。教師間で「生徒の学びのプロセスを重視する」という共通認識を深めることが求められる。
- ② 生徒のキャリア観の育成：地域企業の指摘によると、生徒は成功体験を積む一方で、社会に出た際の現実とのギャップに直面する可能性がある。どの環境でも主体的に課題を発見し、創造的に思考できる資質の育成が重要である。
- ③ 生徒の自由度と試行錯誤の機会の確保：映像制作などのプロジェクトにおいて、生徒が試行錯誤しながら選択できる環境整備が課題とされている。生徒が自由に発想し、失敗を通じて学べる場を確保することが必要である。

今後は、生徒が探究活動を通じて社会とつながり、自らの価値を発揮できる環境を整えらるとともに、教師の支援体制や地域人材の活用をより効果的に進めていく。

7. おわりに

今年度はパナソニック教育財団から研究助成及びオンラインサポートを受け、生徒と教師が共通の見通しを持って総合的な学習の時間における、生徒の主体的な学びを実現に迫ることができた。「課題発見力」と「創造的思考力」育成を支援するツールとしてデジタルポートフォリオをより効果的に活用するためにも、今年度の取組みを評価、見直し、来年度以降も計画的、継続的にカリキュラム・マネジメントを行いたい。カリキュラム・マネジメントへの参画が教師の指導観の転換を後押しし、生徒と共に主体的に学び続ける教師集団となる。このような取組みを本校での実践として留めることなく、日本全国に推進していきたいと考えている。

このような機会を下さった

、パナソニック教育財団関係各所の皆様に深く御礼申し上げます。

8. 参考文献

- ・ OECD. (2019). OECD Learning Compass 2030. OECD.
https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/1-1-learning-compass/OECD_Learning_Compass_2030_Concept_Note_Series.pdf (2024年6月10日)
- ・ 扇原 貴志 他. (2020). 教師エージェンシーの想定要素の検討. 東京学芸大学教育心理学講座。
- ・ 松尾 直博 他. (2020). 生徒と教師の Co-agency とは. 東京学芸大学教育実践研究。
- ・ 文部科学省. (2022). 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開：未来社会を切り開く確かな資質・もう力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現（中学校編）。株式会社アイフィス。